

報道発表資料
平成26年10月10日
気象庁

火山登山者向け情報提供の改善について

気象庁では、平成26年9月27日に発生した御嶽山噴火を踏まえ、当庁が発表する最新の火山情報を登山者等にも迅速かつ的確に提供するため、気象庁ホームページに火山登山者向けの情報提供ページを新たに設け、平成26年10月10日17時から提供を開始します。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁地震火山部管理課

電話 03-3212-8341（内線 4503）

山の活動状況

(平成 26 年 月 日 時 分更新)

1. 噴火警報・予報

< 噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常) が継続 >

2. 火山活動の状況

山では山頂付近で火山性地震が増加しています。

火山性地震は昨日 (10 日) 昼頃から増加しています。振幅はいずれも小さく、火山性微動は発生していません。

噴煙の状況は雲のため不明です。地殻変動には、特段の変化は見られていません。

9月9日からの火山性地震及び火山性微動の回数 (速報値) は以下のとおりです。

	火山性地震	火山性微動
9月 9日	10回	0回
10日	51回	0回
11日 (10時まで)	49回	0回

火山性地震の日回数が50回を超えたのは、××××年 月 日以来です。

3. 防災上の警戒事項等

山では、××××年にごく小規模な噴火が発生した火口内及びその近傍に影響する程度の火山灰等の噴出の可能性がありますので、引き続き警戒してください。

地震活動が活発になっていることから、火山活動の推移に注意してください。

今後、火山活動の状況に変化があった場合には、随時お知らせします。

[・最新の噴火警報 \(リンク \) \(平成×年 月 日 時 分発表 \)](#)

[・最新の火山の状況に関する観測情報 \(リンク \) \(平成×年 月 日 時 分発表 \)](#)

[・最新の火山活動解説資料 \(リンク \) \(平成×年 月 日 時 分 \)](#)

[・山の活動履歴等 \(リンク \)](#)

噴火警戒レベルの説明（例：御嶽山）

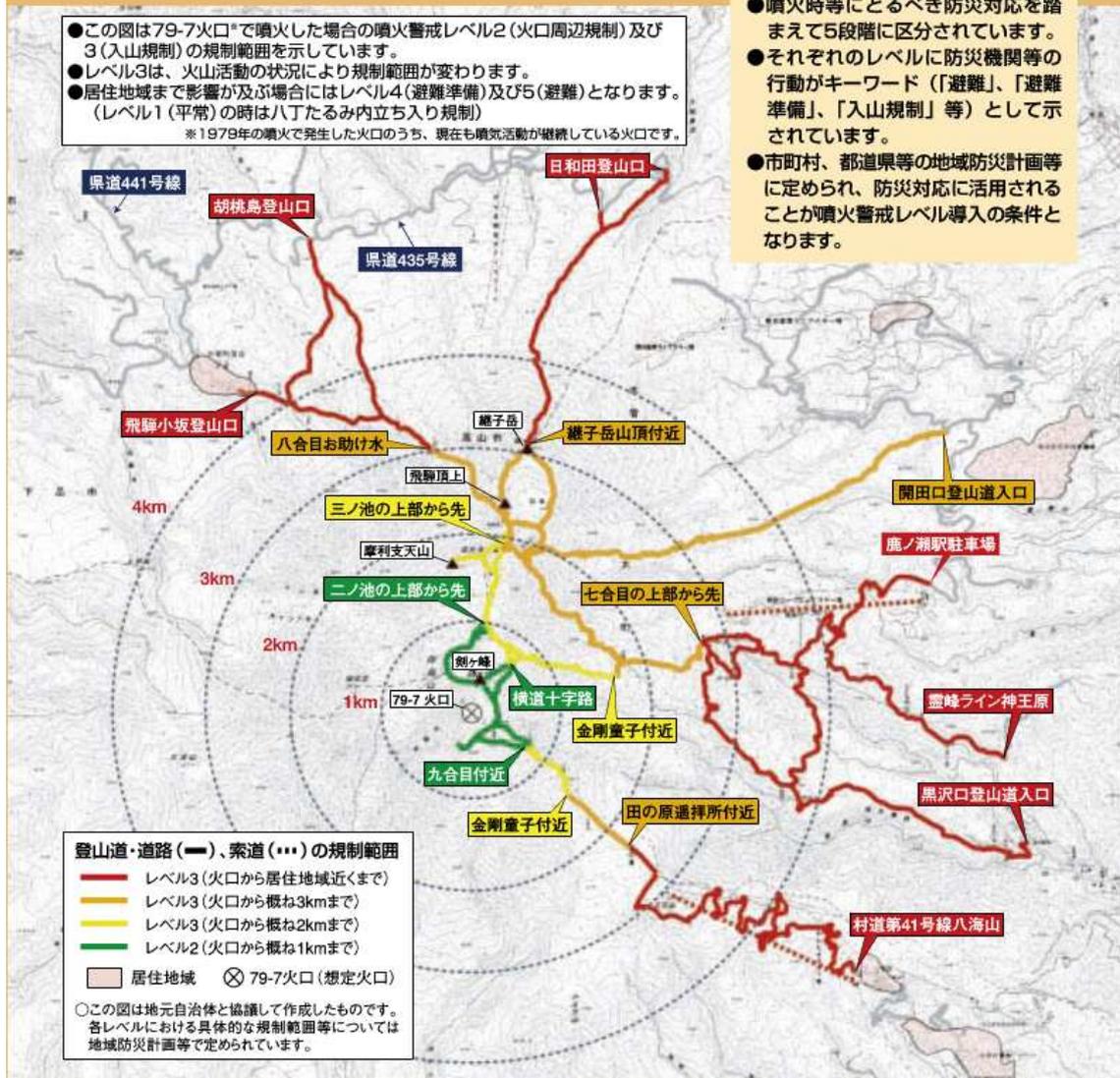
御嶽山の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

- この図は79-7火口*で噴火した場合の噴火警戒レベル2（火口周辺規制）及び3（入山規制）の規制範囲を示しています。
 - レベル3は、火山活動の状況により規制範囲が変わります。
 - 居住地域まで影響が及ぶ場合にはレベル4（避難準備）及び5（避難）となります。（レベル1（平常）の時は八丁たるみ内立ち入り規制）
- *1979年の噴火で発生した火口のうち、現在も噴気活動が継続している火口です。

噴火警報等で発表する噴火警戒レベル

- は
- 噴火時等にとるべき防災対応を踏まえて5段階に区分されています。
 - それぞれのレベルに防災機関等の行動がキーワード（「避難」、「避難準備」、「入山規制」等）として示されています。
 - 市町村、都道府県等の地域防災計画等に定められ、防災対応に活用されることが噴火警戒レベル導入の条件となります。



御嶽山 噴火警戒レベルに応じた防災対応（レベル2～3、想定火口：79-7火口）



本冊子は、FSC認証紙および植物油インクを使用しています。



気象庁地震火山部火山課 火山監視・情報センター
 TEL：03-3212-8341（内線4526） <http://www.jma.go.jp/>
 ■長野地方気象台 防災業務課
 TEL：026-232-3773 <http://www.jma-net.go.jp/magano/>
 ■岐阜地方気象台 防災業務課
 TEL：058-271-4108 <http://www.jma-net.go.jp/gifu/>



御嶽山の噴火警戒レベル

予報 警報	対象 範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山 者・入山者等への対応*	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、大きな噴石や溶岩流や火砕流（積雪期には融雪型火山泥流）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	●噴火活動の高まり、有感地震多発や顕著な地殻変動等により、大きな噴石や溶岩流、火砕流（積雪期には融雪型火山泥流）が居住地域に到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 有史以降の事例なし
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等。	●大きな噴石の飛散が1kmを超える噴火が発生すると予想されるが、概ね4kmを超える範囲に重大な影響を与える噴火が発生する可能性はないと予想される。 過去事例 1979年10月28日：剣ヶ峰南西側斜面（79-1～10火口）で噴火。噴煙の状況から、大きな噴石の飛散が1kmを超える可能性があると思。ただし、4kmを超える範囲に重大な影響を与える噴火に、すぐには移行しないと予想 ●大きな噴石が1km以上飛散する。ただし、概ね4kmを超える範囲に重大な影響を与える噴火は発生しないと予想される。 過去事例 有史以降の事例なし
		2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●地震活動の高まりや地殻変動等により、小規模噴火の発生が予想される。 過去事例 2007年3月後半：79-7火口でごく小規模な噴火が発生し、北東側200m範囲に降灰 2006年12月～2007年2月：山頂部直下でわずかな山体膨脹及び火山性地震・微動の増加 1991年5月中旬：79-7火口でごく小規模な噴火が発生し、東側200m範囲に降灰 1991年4月～7月：火山性地震・微動の増加 ●小規模噴火が発生し、火口から約1km以内に大きな噴石が飛散する。 過去事例 有史以降の事例なし
噴火予報	火口内等	1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等（2008年3月現在、八丁たるみ内規制中）。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び近傍に影響する程度の噴出の可能性あり。

注1) ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散するものとする。

注2) 噴火警戒レベルは、火山ガスに関する規制とは異なる。

※このレベル表は地元市町村等と協議して作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。

火山防災マップ（例：御嶽山、発行：岐阜県下呂土木事務所）

1984年（昭和59年）御岳崩れ



9月14日、長野県西部地震によって御嶽山南側中腹の層岩が大規模に崩壊し、岩塊（がんせつ）なだれが発生し、道路となった地域では、雪が森林がはき取られ、15名の人命が奪われました。

この現象は、ハザードマップに範囲を示していませんが、大規模な噴火や地震等により山体そのものが大きく崩壊することです。崩壊した土砂や岩石は、崩落1000m以上で流れ下ることがあります。崩壊土砂による土砂は、滝沢川を経て、玉滝川に流れ込み、12km下流の御岳まで到達しました。崩壊土砂量は、3,600万m³（東京ドーム29杯分）と見積もられています。現在も上の写真のように、崩壊跡のあとが残っています。



土石流

マグマ噴火により火山灰が30cm以上積もる可能性の高い状態で、100年に1回程度の大雨が降った場合を想定しています。

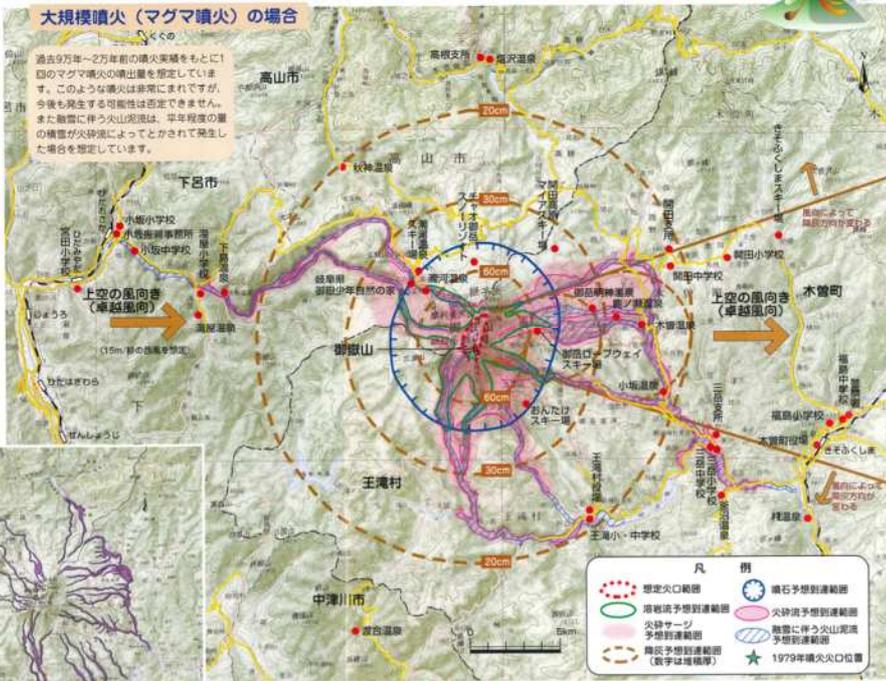
マップを読むときの注意

実際の噴火の影響範囲は、これよりも大きくも小さくもなります。

大規模噴火（マグマ噴火）の場合

過去9万年～2万年前の噴火実績をもとに1回のマグマ噴火の噴出量を想定しています。このような噴火は非常にまれですが、今後も発生する可能性は否定できません。また地震に伴う火山泥流は、半年程度の量の噴雪が火砕流によってとがされて発生した場合を想定しています。

溶岩流・火砕流・融雪に伴う火山泥流・噴石・降灰など



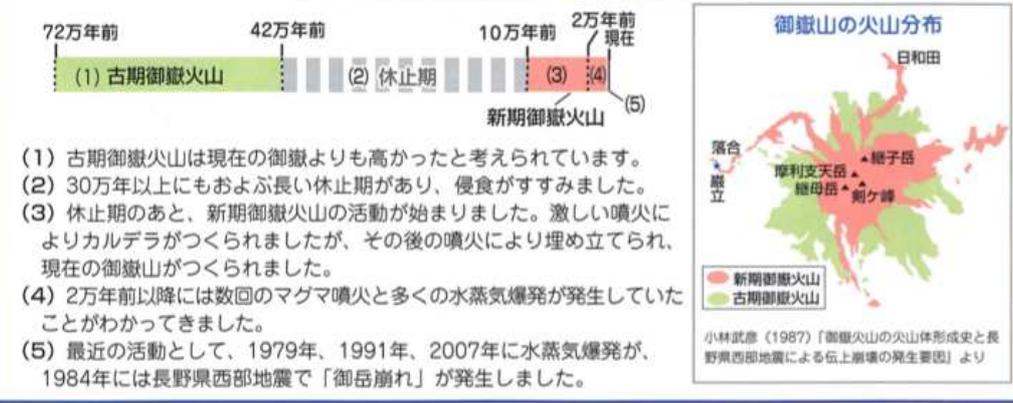
凡 例	
	想定火山口範囲
	噴石予想到達範囲
	溶岩流予想到達範囲
	火砕流予想到達範囲
	融雪に伴う火山泥流予想到達範囲
	降灰予想到達範囲（数字は堆積厚）
	1979年噴火火山口位置

ここで想定している噴火とその影響範囲等は、平成13年度発行の「御嶽山火山防災マップ（御嶽山火山活動を考える会）において『御嶽山ハザードマップ専門委員会』が検討したものです。



ここで想定している噴火とその影響範囲等は、平成13年度発行の「御嶽山火山防災マップ（御嶽山火山活動を考える会）」において「御嶽山ハザードマップ専門委員会」が検討したものです。

御嶽山の活動史



- (1) 古期御嶽火山は現在の御嶽よりも高かったと考えられています。
- (2) 30万年以上におよぶ長い休止期があり、侵食がすすみました。
- (3) 休止期のあと、新期御嶽火山の活動が始まりました。激しい噴火によりカルデラがつくられましたが、その後の噴火により埋め立てられ、現在の御嶽山がつくられました。
- (4) 2万年前以降には数回のマグマ噴火と多くの水蒸気爆発が発生していたことがわかってきました。
- (5) 最近の活動として、1979年、1991年、2007年に水蒸気爆発が、1984年には長野県西部地震で「御嶽崩れ」が発生しました。